

こどもがあぶない⇒東日本の小児医療病院で原発事故後に急増した小児・慢性原爆症候群の疾病

山田國廣著

「東日本におけるDPC登録8か所の小児医療病院において原発事故後に急増した小児・慢性原爆症候群の疾病」



福島原発事故被害放射能毒・化学毒原因裁定を求める会

◎東日本における 8 か所の小児医療病院において原発事故後に急増した小児・慢性原爆症候群

厚生労働省の「DPC導入の影響評価に係る調査」の初期画面とDPCデータへのアクセス方法

DPCとは：Diagnosis Procedure Combinationの頭文字をとったもの。Diagnosis（診断）、Procedure（治療・処置）、Procedure(組み合わせ) という意味で、「診断、治療、処置を組み合わせ」により、WHOが定めているMDC（主要診断群）・18 疾病区分における様々な疾病、病状の患者さんの分類を行うための指標で、“診断群分類包括制度”と呼んでいる。

DPC導入の影響評価に係る調査

パソコンにより DPC データへアクセスするための方法：

方法 1：初期検索画面に以下のアドレスを入れる

<https://www://mhlw.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000049343.html>

方法 2：初期検索画面に「DPC 導入の影響評価に関する調査」というキーワードを記入

DPC とは：Diagnosis Procedure Combination の頭文字をとったもの。Diagnosis(診断)、Diagnosis (治療・処置)、Combination (組合せ) という意味で「診断」と「治療・処置」を組み合わせ、「様々な疾病・病状の患者さんを分類するための指標で、これを「診断群分類包括評価」と呼んでいる。

統計の概要

統計の目的
統計の作成方法
統計の沿革

統計の目的：DPC 制度は「急性期入院医療の診断群分類に基づく 1 日当たりの包括評価制度」である。本調査はこの DPC の導入による影響の検証及び今後の DPC の継続的な見直しのために必要なデータの収集を目的とし、中央社会保険審議会の付託を受けた診療報酬調査専門組織・DPC 評価分科会の下、実施するものである。

集計結果

結果の概要
利用上の注意
統計表一覧
用語の解説
正誤情報
利活用事例

クリックすると「平成 29 年度から平成 18 年度の DPC データ一覧表」が出てくる。

公表予定

公表予定

クリックすると「DPC データ公表予定時期」が出てくる。

過去情報

過去情報については、統計表一覧からご覧ください。

統計表一覧はこちら

クリックすると「平成 29 年度から平成 18 年度の DPC データ一覧表」が出てくる。

その他

問い合わせ先

保険局医療課包括医療推進係

電話：03-5253-1111(内線3155)

2010年度から2018年度の東日本における小児専門病院8施設のDPC登録告示番号

No	施設名	都道府県	2010年度の告示番号	2011年度の告示番号	2012年度の告示番号	2013年度の告示番号	2014年度の告示番号	2015年度の告示番号	2016年度の告示番号	2017年度の告示番号	2018年度の告示番号	病院類型
1	宮城県立こども病院	宮城					90157	90156	30121	30121	30124	平成28年度DPC参加病院
2	茨城県立こども病院	茨城					00707	00703	90179	90173	30182	平成28年度新規DPC準備病院
3	群馬県立小児医療センター	群馬			90150	90150	30233	30233	30241	30241	30245	平成26年度DPC参加病院
4	埼玉県立小児医療センター	埼玉			90151	90151	30251	30251	30261	30261	30303	平成26年度DPC参加病院
5	千葉県こども病院	千葉	1401	1401	30271	30271	30294	30294	30304	30304	30309	平成23年度DPC参加病院
6	国立研究開発法人 国立成育医療研究センター	東京	903	903	30418	30418	30444	30444	30454	30454	30468	平成21年度DPC参加病院
7	東京都立小児総合医療センター	東京			90161	90161	30427	30427	30438	30438	30452	平成26年度DPC参加病院
8	神奈川県立こども医療センター	神奈川			90164	90164	30450	30450	30460	30460	30477	平成26年度DPC参加病院

過剰相対倍率の原発事故影響に対する5分類色分け評価基準

表 過剰相対倍率の原発事故影響に対する5分類色分け評価基準

原発事故影響の5分類色分け表示	評価基準の内容
影響なし	2011年～2018年治療数と2010年（原発事故前）治療数を比較したときの過剰相対倍率が1以下（黒色数値表示）下の場合
軽微故影響有	2011年～2018年治療数と2010年（原発事故前）治療数を比較した過剰相対倍率のどちらかが1.1～1.29（ベージュ色数値表示）の場合
影響有	2011年～2012年治療数と2010年（原発事故前）治療数を比較した過剰相対倍率のどちらかが1.3～1.49（青色数値表示）の場合
重大影響有	2011年～2018年治療数と2010年（原発事故前）治療数を比較した過剰相対倍率のどちらかが1.5（赤数値表示）以上である場合

子どもがあぶない!! ⇒ 福島第一原発事故影響により東日本の小児（0歳～15歳）専門病院において全臓器に多様な病気が急増していた（その1）

疾患のMDC区分	病名	算定対象の小児（0歳～15歳）専門病院数	2010年度（事故前）診療・手術数	2011年度の診療・手術数	2012年度の診療・手術数	2013年度の診療・手術数	2014年度の診療・手術数	2015年度の診療・手術数	2016年度の診療・手術数	2017年度の診療・手術数	2011年度の過剰相対倍率	2012年度の過剰相対倍率	2013年度の過剰相対倍率	2014年度の過剰相対倍率	2015年度の過剰相対倍率	2016年度の過剰相対倍率	2017年度の過剰相対倍率	
脳・神経系疾患	脳脊髄の感染を伴う炎症	東日本の小児専門6病院の診療・手術数	20	41		81	139	153	196	92	2.1		4.1	7.0	7.7	9.8	4.6	
	水頭症	東日本の138病院	965	1559	1906				2295	2359	1.6	2.0					2.4	2.4
	てんかん	東日本の小児専門6病院の診療・手術数	113	137	436	430	605	520	504	575	1.2	3.9	3.8	5.4	4.6	4.5	5.1	
眼科系疾患	斜視（外傷性・癒着性を除く）	東日本の小児専門6病院の診療・手術数	145	248	379	431	397	383	537	611	1.7	2.6	3.0	2.7	2.6	3.7	4.2	

子どもがあぶない!! ⇒ 福島第一原発事故影響により東日本の小児（0歳～15歳）専門病院において全臓器に多様な病気が急増していた（その2）

疾患のMDC区分	病名	算定対象の小児（0歳～15歳）専門病院数	2010年度（事故前）診療・手術数	2011年度診療・手術数	2012年度診療・手術数	2013年度診療・手術数	2014年度診療・手術数	2015年度診療・手術数	2016年度診療・手術数	2017年度診療・手術数	2011年度の過剰相対倍率	2012年度の過剰相対倍率	2013年度の過剰相対倍率	2014年度の過剰相対倍率	2015年度の過剰相対倍率	2016年度の過剰相対倍率	2017年度の過剰相対倍率
消化器系	食道・胃・十二指腸、他腸の炎症	東日本の小児専門6病院の診療・手術数	59	87	66	426	483	463	486	465	1.5	1.1	7.2	8.2	7.8	8.2	7.9
	鼠経ヘルニア	東日本の小児専門6病院の診療・手術数	250	270	267	726	658	701	720	706	1.1	1.1	2.9	2.6	2.8	2.9	2.8
	閉塞、壊痕のない服腔のヘルニア	東日本の小児専門6病院の診療・手術数	32	42	41	134	152	186	172	182	1.3	1.3	4.2	4.8	5.8	5.4	5.7

子どもがあぶない!! ⇒ 福島第一原発事故影響により東日本の小児（0歳～15歳）専門病院において全臓器に多様な病気が急増していた（その3）

疾患のMDC区分	病名	算定対象の小児(0歳～15歳) 専門病院数	2010年度(事故前) 診療・手術数	2011年度 診療・手術数	2012年度 診療・手術数	2013年度 診療・手術数	2014年度 診療・手術数	2015年度 診療・手術数	2016年度 診療・手術数	2017年度 診療・手術数	2011年度 過剰相対倍率	2012年度 過剰相対倍率	2013年度 過剰相対倍率	2014年度 過剰相対倍率	2015年度 過剰相対倍率	2016年度 過剰相対倍率	2017年度 過剰相対倍率
内分泌・栄養・代謝疾患	下垂体機能低下症	東日本の小児専門6病院の診療・手術数	36	52	67	96	87	117	130	141	1.4	1.9	2.7	2.4	3.3	3.6	3.9
	代謝障害	東日本の小児専門6病院の診療・手術数	60	80	141	97	128	179	220	118	1.3	2.4	1.6	2.1	3.0	3.7	2.0
腎・尿路疾患および男性生殖器疾患	下部尿路疾患	東日本の小児専門6病院の診療・手術数	23	113	404	332	343	412	297	340	4.9	17.6	14.4	14.9	17.9	12.9	14.8
	ネフローゼ症候群	東日本の小児専門6病院の診療・手術数	87	102	243	297	244	194	311	322	1.2	2.8	3.4	2.8	2.2	3.6	3.7
	腎臓または尿路の感染症	東日本の小児専門6病院の診療・手術数	94	124	294	251	283	318	312	370	1.3	3.1	2.7	3.0	3.4	3.3	3.9

子どもがあぶない!! ⇒ 福島第一原発事故影響により東日本の小児（0歳～15歳）専門病院において全臓器に多様な病気が急増していた（その4）

疾患のMDC区分	病名	算定対象の小児（0歳～15歳）専門病院数	2010年度（事故前）診療・手術数	2011年度の診療・手術数	2012年度の診療・手術数	2013年度の診療・手術数	2014年度の診療・手術数	2015年度の診療・手術数	2016年度の診療・手術数	2017年度の診療・手術数	2011年度の過剰相対倍率	2012年度の過剰相対倍率	2013年度の過剰相対倍率	2014年度の過剰相対倍率	2015年度の過剰相対倍率	2016年度の過剰相対倍率	2017年度の過剰相対倍率
血液・造血器・免疫臓器疾患	急性白血病	東日本の小児専門8病院の診療・手術数	26	17	348	428	444	623	716	710	0.7	13.4	16.5	17.1	24.0	27.5	27.3
	非ホジキンリンパ腫	東日本の小児専門8病院の診療・手術数	74	10	27	21	22	97	125	238	0.1	0.4	0.3	0.3	1.3	1.7	3.2
	出血性疾患	東日本の小児専門8病院の診療・手術数	13	14	94	102	132	167	179	144	1.1	7.2	7.8	10.2	12.8	13.8	11.1
	原発性免疫不全症候群	東日本の小児専門8病院の診療・手術数	15	20	17	14	70	81	62	54	1.3	1.1	0.9	4.7	5.4	4.1	3.6

子どもがあぶない!! ⇒ 福島第一原発事故影響により東日本の小児（0歳～15歳） 専門病院において全臓器に多様な病気が急増していた（その5）

疾患のMDC区分	病名	算定対象の小児（0歳～15歳）専門病院数	2010年度（事故前）診療・手術数	2011年度の診療・手術数	2012年度の診療・手術数	2013年度の診療・手術数	2014年度の診療・手術数	2015年度の診療・手術数	2016年度の診療・手術数	2017年度の診療・手術数	2011年度の過剰相対倍率	2012年度の過剰相対倍率	2013年度の過剰相対倍率	2014年度の過剰相対倍率	2015年度の過剰相対倍率	2016年度の過剰相対倍率	2017年度の過剰相対倍率
新生児疾患	妊娠期間短縮に関連する低体重出生	東日本の小児専門8病院の診療・手術数	55	80	1395	1385	1656	1915	1949	1693	1.5	25.4	25.2	30.1	34.8	35.4	30.8
先天性奇形	脳・脊髄の先天奇形	東日本の小児専門8病院の診療・手術数	12	18	251	291	344	429	533	598	1.5	20.9	24.3	28.7	35.8	44.4	49.8
	心房中隔欠損症	東日本の小児専門8病院の診療・手術数	27	33	112	199	393	351	476	298	1.2	4.1	7.4	14.6	13.0	17.6	11.0
	先天性心疾患	東日本の小児専門8病院の診療・手術数	70	89	353	510	2266	2314	2128	2128	1.3	5.0	7.3	32.4	33.1	30.4	30.4
	先天性下部尿路疾患	東日本の小児専門8病院の診療・手術数	112	155	305	392	373	433	387	462	1.4	2.7	3.5	3.3	3.9	3.5	4.1
	手足先天奇形	東日本の小児専門8病院の診療・手術数	185	221	526	556	600	719	718	846	1.2	2.8	3.0	3.2	3.9	3.9	4.6
	停留精巣	東日本の小児専門8病院の診療・手術数	92	126	420	487	536	526	603	539	1.4	4.6	5.3	5.8	5.7	6.6	5.9
小児病	川崎病	東日本の小児専門8病院の診療・手術数	36	52	67	96	87	117	130	141	1.4	1.9	2.7	2.4	3.3	3.6	3.9

2023/12/26

山田國廣著「東日本の小児医療病院において原発事故後急増した小児慢性原爆症候群の疾病」